

現代文（小説） 演習3

【心情の変化】

|    |   |    |   |
|----|---|----|---|
| 氏名 |   | 学校 |   |
| 月  | 日 | 年  | 組 |

○ 主人公の心情の変化を読み取ろう。

（本文）  
ケン坊はとつと成人しているが、近所の人たちはみんな今も「ケン坊」と呼ぶ。賢太郎という本名でケン坊のことを呼ぶのは、よその人だけだ。何年か前に母が切り抜いた新聞には、「進藤賢太郎一位指名」という文字があった。  
「それなに。」と母に聞くと、「ケン坊のことが新聞に載ってるんだよ。」と母は答えた。  
「何か悪いことでもしたの。」わたしは驚いて聞くと、母は笑った。  
ケン坊は、高校在学中にプロ野球の投手として球団に指名されたのだ。指名だのプロだのという言葉の意味が、そのころのわたしにはわからなかった。入団の四年後、ケン坊は練習中に利き腕を怪我した。数か月後に新聞に載った「新藤、自由契約に」という言葉の意味を、もうわたしは理解できるようになっていた。「キャンプ」だの「遠征」だの家に居つかなかったケン坊が家に戻ってきたのは、それからしばらくしてからである。  
『帰ってきたケン坊は、めったに家から出なかった。ケン坊のとおぼさんは、わたしの家に来ては母に何かと相談した。ときおり、おぼさんが話の途中で泣きだしてしまふこともあった。そういうとき母は台所から厚く切ったようかんの皿を持ってきて、おぼさんに勧めた。甘いもの食べると、気が落ちつくよ。人間万事塞翁が馬。そんなことを母は言いながら、ようかんをしきりに勧めた。』  
ケン坊のおぼさんは、そのうちにあまり泣かなくなり、ケン坊もときどき川の土手を散歩したりするようになった。ケン坊ががり戸を開ける音をききつけると、わたしはがいそいで玄関に走り、サンダルをひっかけて、ケン坊の後を追いかける。大きなケン坊ががり戸を開ける音は、サンダルをひっかけて、小柄なおぼさんがたてるびしゃびしゃした音がより、よつぽどやさしく響いた。』

○ ケン坊の様子が昔と変わってしまった理由を四十字以内で答えましょう。

|       |       |
|-------|-------|
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |

○ 本文中『 』の部分から「わたし」のケン坊に対する気持ちが変わる部分を2か所抜き出しましょう。また、抜き出した部分から「わたし」がケン坊をどのように思っているか十字以内で答えましょう。（ただし、文末の形は問いません。）

【抜き出し】

|       |       |
|-------|-------|
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |
| ----- | ----- |

【「わたし」の思い】

|       |
|-------|
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

【読み取りのポイント】

☆ 小説は言葉を言い換え、わかりやすく表現できるかが勝負です。評論には似たような言葉が本文中に存在することが多いので、理解ができていれば本文中の言葉を用いて答えることができますが、小説はこのように言葉を使い換える必要があります。